

ミノルタ千代光会 会報 No.161

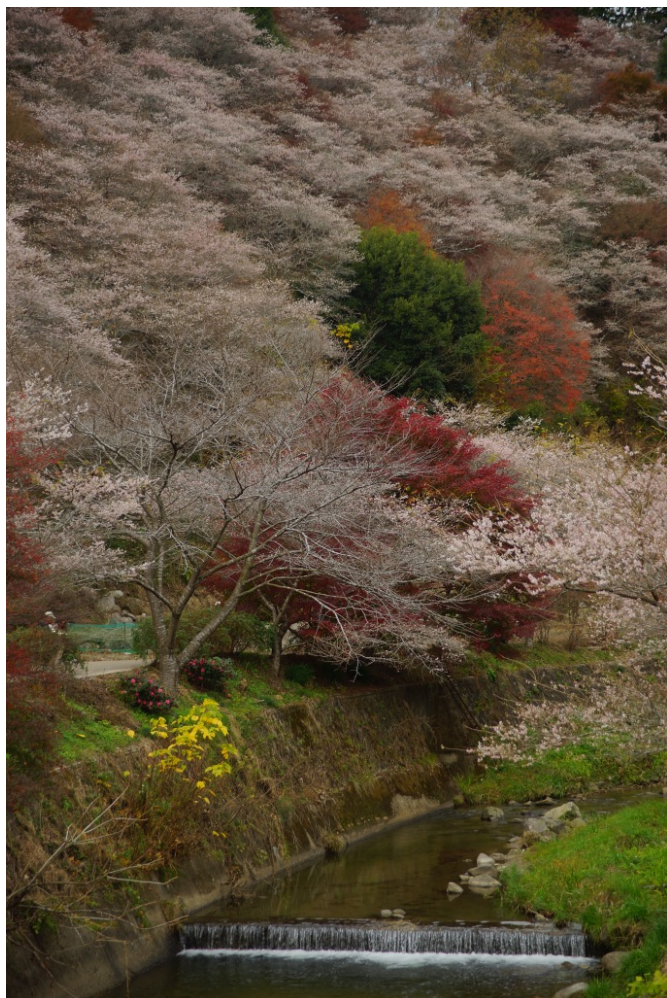
二〇二四年度 期初のご挨拶

会長 大場 勝

木々は萌黄色に芽吹いて山が笑い、街にはフレッシュな学生、会社員が目立つ候となり、2024年度を迎えています。そしてコロナで活動が制限された3年間はひと区切りをつけ、マスク姿も少なくなりコロナ前の活発な状況に戻りつつあります。

当会においては、コロナ禍中は高野山慰霊祭と会報発行以外の行事等の活動は控えていましたが、2022年度より感染に注意をしながらも対面の行事や総会・親睦会を再開し3年目を迎えます。

一般に観光客の人数や、社会的指標がコロナ前と比べて云々と報じられています。が、私達の生活はどうでしょうか。



「四季桜」 豊田市小原地区の「四季桜」の写真です。ここには2年続けて撮影に行った1枚です。中々天気恵まれず、2年目に行った時の写真です。桜と紅葉の共演が見ものです。春の桜の時期にも一度訪れてみたいと思います。〔撮影：寺内伸也〕

当会の活動を再開した2022年度の総会への参加者人数はコロナ前より半減（関西地区の例）の状況でしたが、今年3月に開催の2023年度総会は各地区とも前年度より増えておりコロナ前の状況に向けて徐々に回復している兆しがあり、本年度も皆様の積極的な参加により親睦が深まることを期待しております。

一方、コロナ発生から5年経過し、その間当会の会員平均年齢は3才伸びて78.5才となっており、高齢者にとつてこの5年間の体調の変化、家族環境の変化は日常の生活を変えていることも想定されます。一般的には、コロナ感染を避けて籠もっていたことが健康への不安と孤立への不安を増しており、このフレイル対策としては外出をして人と交流する機会を持つことが最も有効であると言わ



目次：No. 161

2024年度会長挨拶	1-2
2023年度各地区総会報告	2-3
理事会だより	4
会計報告	4
事務局からお知らせ	4-5
追悼の辞	5-6

れています。会員各位におかれましては、健康状態や介護等個々により状況も異なりますので、状況に合わせて参加いただき、またそれを考慮しながら運営して参りたいと思っております。直接会わずとも会報やHPを通じて会や会員の様子の情報をお届けしていますし、リモートによる懇親会も出来るようになっていきますのでトライしてご利用ください。

平均年齢の高齢化の要因の一つに近年のOB会への入会者が少ないことがあります。昨年度も記しましたが2003年の経営統合後も会員数は増え続け10年後にピークを迎えました。が、その後は減少傾向が続いておりピークから10年目の昨年度迄に150名の会員数が減少しています。

これまで理事会では入会や行事参加の勧誘をはじめ日常の課題処理を行なってきましたが、一方で高齢化、会員数の減少、行事等参加者の減少、運営スタッフの確保困難、等の課題が年々深刻化、顕在化していることを踏まえて、理事会では、この傾向は一過性の問題ではなく将来的にはミノルタ千代光会の活動が出来なくなるリスクがあるとの認識を持ち検討して来しました。そして昨年度には、このリスクに対する準備は整えておくべきと考えて将来の解散

2023年度 各地区の総会報告

《関西地区》

3月6日（水）

2023年度のミノルタ千代光会関西地区の総会は、3月6日（金）午前11時より、昨年と同じく、大阪梅田の新阪急ホテル「花の間」で開催されました。

参加人数は昨年度の総会より若干増加し、会員57名。ご来賓として、ユニカミノルタ（株）常務執行役亀澤仁司氏とユニカミノルタ労働組合中央執行委員長結城健太氏をお招きしました。

今年度の総会参加に当たっては、新入会員と10年超ぶりの参加会員に対して特別割引をオファーし7名の参加を得ました。

受付は10時から開始されましたが、例年

の手続きや解散の判断基準等を設定し、従来会則に無かった会の解散条項を盛り込みました。近年、健康な老後生活の送り方を含め、終活についての情報が多く見受けられますが、終活は個人に限ったことでなく組織でも同じと考え今後に備えておく一策とご理解いただきたく思います。改定会則を同封していますのでご覧ください。

先にコロナのことに触れましたがコロナ下でリモート会議が普及、可能となり、関西、中部、関東の理事の方々がパソコンの画面で一堂に会することが出来たことも、このような重要な案件が検討され、まとまった要因にもなりました。

2026年はミノルタ千代光会創立50周年の年になります。半世紀に渡る活動に思いを馳せる年としたく皆様からのアイデアを含めて本年度から準備を進めていききたいと思えます。

引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

通り早くに受付を済ませる会員の方もおられ、久方ぶりの再会に話が弾む様子が見られました。司会進行は鈴田理事によって行われ、開会の辞が述べられた後、物故者に黙禱が捧げられました。

最初に、大場会長よりご挨拶がありました。高齢化が進む会員状況や会を運営する理事や事務局の担い手不足等の課題を踏まえて、将来を見据えた準備としての解散条項の新設など会則の改訂を、4月1日付で実施することが報告されました。

次に、塩見理事より「2024年度関西地区事業計画の件」が付議されました。例年通り、懇親行事の開催（詳細は後日発表）、会報の発行・高野山での物故者慰霊祭（本部事業）等の計画が説明され、参加者の拍手をもって了承を得ました。



続いて、当日参加の新入会員と初参加者または直近10年間参加された事がなかった会員7名が紹介されました。

最後に、フォトギャラリー作品及び出展者の紹介（一部は「ミノルタ千代光会HP」に掲載）があり、今年度の総会は無事に閉会となりました。

休憩時間を挟んで皆様お楽しみの懇親会が始まりました。

初めに、来賓お二人の紹介が行われた後、



亀澤氏より会社状況の説明及び中期経営計画についてご説明をいただきました。会社は新型コロナウイルス感染症の影響から脱出しつつあり、事業の稼働力、事業貢献利益は回復傾向にあるとの希望が持てるご説明をいただきました。



食事の準備の為、参加者の皆様には一旦退出していただいた後、再度入室。日置育郎氏の乾杯の音頭で円卓テーブルを囲んでの大皿料理の提供による会食・歓談の楽しいひと時が始まりました。お酒が入り和気あいあいの雰囲気の中で時間は経過し、抽選会も行われました。これまでの商品券に代わってQUOカード

が10名の方々に当たりましたが、テーブルによつては当選者が複数出るところもあり、驚きの声や、ため息も聞こえてきました。

最後に、参加者全員が起立し、川村理事のリードにより「千代の光」を大合唱。今井副会長の中締め挨拶でもって懇親会は閉会となりました。閉会後のロビーでは、二次会に集うグループの輪がで

き、宴はこれからという強者の笑い声が、ひととき高く響き渡っております。

今年度の会場となった新阪急ホテルですが、老朽化・耐震対応の関係から閉鎖・解体することが決まっているそうです。来年度の関西地区総会は新たな場所を設定し



新鮮な気持ちで会員の皆様の参加をお待ち申し上げることにいたします。どうぞご期待ください。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

(記 監事 鈴木和文)

《関東地区》

日時 3月8日(金) 12時
場所 品川プリンスホテル 品川大飯店

参加者 大場会長および会員14名、関東地区理事3名の18名に来賓としてコニカミノルタ株式会社執行役員大西邦彦様が参加頂きました。廣澤理事の司会で始まり、まず初めに物故者に黙とうし、続いて関東地区代表理事および大場会長の挨拶があり続いて議事に入りました。

議題は
【1】2023年度事業報告(懇親会の報告など)

【2】物故者・転居による所属地区移動者・会員数や関東地区2023年度慶事対象者の紹介(関東の会員数58名

等)

【3】2024年度事業計画

(会の現状として参加者の減少や理事の活動に対する体力不安などを基本「今秋の懇親会、24年度総会計画案」)

【4】大場会長報告(会則改定についての報告など)

【5】関東地区の今後について西理事より報告(理事の体力減少の補充について協力者の要請など、会員の減少に対する理解と協力をお願い)



総会は3月9日(土)会員48名来賓3名の計51名の参加を得て、昨年同様JR飯田線豊川駅前のサンプラザ豊川にて開催いたしました。昨年は4年ぶりの開催で、コロナの余波もあり45名の参加でしたが、本年度は50名を越える方々の参加を頂き開催出来したこと、誠に有難とうございました。

総会は松下理事の司会の元、例年通り物故者への黙祷から始まり、今村代表理事、大場会長の挨拶と続き、報告事項(活動報告・会計決算報告)、そして、転入者の紹介及び提案事項(活動計画案・会計予算案)の説明があり、報告事項と提案事項についてはそれぞれ承認されました。



《中部地区》

3月9日(土)

以上の案件につき賛同を得て、引き続き来賓のコニカミノルタ大西執行役員より会社の現状説明を頂き、そのあと懇親会に入り記念写真撮影などやかな進行で、また欠席者の近況報告もあり楽しく盛り上がりつつ15時に閉会しました。

(記 代表理事 西 則光)

その後、会則改訂について、概要及びその考え方に対する説明、補足がされました。

次年度2024年度の活動計画では、会員の皆さんからの要望もあった1泊バス旅行や三河サイトに新設された工場の見学会も計画しておりますので、奮っての参加をお願い致します。



総会終了後、会社来賓としてお越し頂いた伊藤上席執行役員からスライドを使った卓越した会社説明のお話しぶりに聞き入り、会社状況の理解を更に深めました。その後、参加者全員による記念写真を撮り、会場をレストランに移し、懇親会に進みました。

懇親会は昨年からバイキング方式の会食とし、河野盾臣さんの乾杯の音頭により、会食、懇親がスタートしました。昨年から来賓席を除き自由席とし、来賓及び会員同士の親交を深めると共に旧交も温め会員のつながりを深めました。懇親会中に記念集合



写真を配布いたしました。普通紙でのA4サイズ写真の為か写りも今一つの写りで次年度からもう少し出来栄の良い写真プリントが出来来るようにと考えております。

懇親会もあつという間に予定時間が過ぎ盛り上がりつつある中でしたが、斎藤正弘さんの発声による万歳三唱をし、次年度の再会を願いながら散会と致しました。

来年度も多くの方々に参加頂けるよう工夫をしていきたいと思っておりますので、参加の程宜しくお願い致します。

また、皆さんからのご意見・アイデアもあればお聞かせ頂きます様併せてお願い致します。

(記 中部地区 事務局)

おめでとうございます

田=中部地区会員
園=関東地区会員
無印=関西地区会員

<古稀>

2月 井戸 久夫 伊藤 芳伸
3月 伊藤 正澄田 下前 則隆

<喜寿>

2月 阪田 時雄 米多比常世 松吉 伸二
角田 徹
3月 奥 洋治郎 岸本 清志 中村 芳博園
林田 正光 藤原 光春 安野 眞二
中谷 啓二田
4月 土手下 正彦

<傘寿>

2月 中尾 睦宏田 片野 幸男田 村上 圭助田
中村 義博田 三宅 武
3月 藤田 隆一 竹之下 徹 大西 正之
4月 森 孝則田 内田 逸男田 中村 達夫
荻野 修司 加藤 志夫田 寺田 葆
丸木 利明
5月 加茂 清次

<米寿>

2月 大山 作治 葛谷昇之輔
3月 吉村 満雄 副田 耕一園
4月 福井 一成 小島 力園 内田 保雄

<卒寿>

2月 高林 俊明田 山口 周三 大国護昇吉田
3月 鈴木 三郎 久保田 勇 窪 猛

対象者：1月31日から5月14日生まれの方

事務局からお知らせ

新入会員のお知らせ*(所属地区)

富野 昌彦(関西) T. O (関西)
宮崎 仁孝(関西) 美間 雄二郎(関西)

【会員状況】

4月16日現在

関西地区〔481名〕
中部地区〔199名〕 合計〔738名〕
関東地区〔58名〕

理事会だより

2月理事会

◇関西地区議題

2023年度総会(経費/進行)

3月理事会

◇2023年度の各地区総会報告

◇本部2023年度決算見込みと2024年度予算案

◇関西地区議題

- ・2023年度決算見込みと2024年度予算案
- ・総会総括

4月理事会

◇2023年度会務報告

◇2023年度活動報告(本部, 三地区)

◇2023年度会計報告(本部, 三地区)

審議事項

◇2024年度予算案審議(本部, 三地区)

◇関西地区議題

- ・2024年度総会の日程・場所について

2023年度会計報告 2024年度予算

(単位：円)

		2024年度予算	2023年度実績	2023年度予算
収入	会社助成金	3,423,000	3,480,000	3,480,000
	入会金他	100	180,139	100,100
	収入合計	3,423,100	3,660,139	3,580,100
支出	地区活動支援費	1,350,000	1,350,000	1,350,000
	慶弔費	410,000	246,000	460,000
	高野山慰霊祭費	700,000	646,309	700,000
	事務運営費他	1,320,000	1,040,690	1,070,000
	支出合計	3,780,000	3,282,999	3,580,000
繰越金		8,716,400	9,073,300	8,696,260



《同封しています》

1. 2024年度重要事項
お知らせの連絡先
2. ミノルタ千代光会
会則

お悔やみ申し上げます

結束 一男	2024年2月9日
奥平 任志	2024年3月9日
吉田 公秀	2024年2月25日
新井 康友	2024年3月20日
木村 淳	2024年3月30日
吉村 信雄	2024年4月3日
山田 重夫	2024年4月7日

追悼の辞

保富 英雄さん

2023年6月21日死去

年初に飛び込んできた保富さんの訃報は衝撃的なニュースだった。早速、知財関係者と連絡をとったが皆さんからは異口同音に悲痛な想いが寄せられてきた。

65歳という若すぎる彼の行年、未だ現役で活躍している皆さんにとっても、同僚を亡くした感慨があるようだ。私も同じ思い。2003年のKM統合以来、当時知財管理職であった彼は、知財部の統合に向けて共に汗をかけた同志だった。遠い先輩を亡くしたのではなく、すぐ隣で仕事をしていた同僚を失ったような、そんな唐突感が誰の胸をもよぎるようだった。

彼は1981年入社。最初の職場は事務機関係の開発だった。電子写真感光体（伊丹）やインクジェットの開発（高槻）に15年余り従事された。その間の開発者としての実績は素晴らしく、発明者としての特許出願数は300件を超えていた。ミノルタの発明ランキングではトップグループの一員で、パテントマスターなど社内での受賞履歴も数多い。

そんなきら星のような開発者だった彼を、1997年に知財部に引つ張ってきたのは当時の知財部長だった。彼の発明創出・発掘力に惚れ込んだ知財強化のための招聘だった。知財転籍後は、その期待どおりの活躍でリエゾン業務に辣腕を発揮されていた。

KM統合後には、不肖の部長だった私を支援するべく居を東京に移して日野・八王子でOTやTC領域でのリエゾン業務に活躍してくれた。

彼は、知財部には珍しい（？）イケメン男子だったので女性ファンも多い。また朴訥と物静かに喋る姿に浮ついたところは一切なく、温かい気持ちで伝わってくる男でもあったので男性仲間との交わりも深いようだった。

私が、個人的に印象深く覚えているのは、堺技術センター前の焼き鳥屋に彼が誘ってくれたときのことだ。米国駐在から帰国して「今浦島」だった私に熱く知財部の現状や将来を語っていた姿が昨日のここのように思い出される。大学の同窓ということもあって格別の親しみをもって接してくれた彼の気持ちは、今も私の胸にうずみ火のように温かく残っている。短すぎた彼の人生を惜しむと共に彼のご冥福を祈って、今はただただ瞑目合掌するのみ。

（亀井 勝）

結束 一男さん

2月9日死去

結束一男さんを偲んで

結束さんは昭和三十九年ミノルタ入社、豊川メーター課を経て、昭和四十三年の特許部創設に伴い特許課の一員になり、特許一筋のキャリアをスタートされました。

その後、カメラ開発の弛まぬ努力により生れた貴重な発明を早期出願、権利化する特許部特許一課長

として組織運営に注力、開発技術者の特許教育にも尽力されました。

特許部時代、結束さんの指導で部下も育ちました。決して腹立てることなく率先して見せる上司であり、例えば、英会話にはご自身熱心で、部下もそれに倣って取り組みTOEIC受験に挑みました。米国での特許取得の効率化を唱えられ、分厚い米国特許審査マニュアル原本を読み合うことで、部下が知識と同時に英語読解、作文力を高めた結果、代理人とのやりとりが直接可能になったことも。

対外的には特許協会（当時）に参加、他社参加者との交流にも努められ、部下が他社動向や外国に目を向けさらに向上する素地を与えてくれました。

米国特許訴訟では諸事共に取り組んだ苦く忘れ難い思い出もあります。

平成七年ミノルタ退社後の結束さんは、日本電産（現ニデック）知財部で管理職として活躍され、休日返上の厳しさを反って楽しそうに語ってくれたことがあります。日本電産退社後も、知財協会の仕事を継続されていて、特許との関わりを本当に生き甲斐にされているのだと感嘆しました。

OB会には欠かさず出席され、旧交を楽しんでおられました。阪大病院と専門施設での難病との闘いに専念されるようになり、最後にお会いしたのは令和元年秋のOB会に

なっていました。

特許部時代部下として二十年間、OBとして八年間をご一緒いただいた私としては、本音で話し合えた大切な先輩を失い寂しいかぎりです。今は長い闘病の苦しみが続いたことに安堵されているのでしょうか。

心からご冥福をお祈りいたします。

(片岡敏博)

結束氏の訃報を聞いて

結束さんの訃報を聞いて大変驚いています。

結束さんとは、堺工場に隣接する技術センター特許部に何回か自動化特許出願の際に出会った(直接の担当ではありません)時、私は堺工場カメラの組立一課、彼は特許部に在籍でした。その後、技術センター省力研究室移籍後は家族ぐるみのおつきあいが始まり、和泉市に新築した自宅に夫婦で遊びに来てもらい、また彼が泉南に家を新築した際は招かれて訪問しました。

彼は生涯弓道をしていて、和の心を持つ和服がよく似合う頭脳明晰で相手を見据える目には日本人はおろか、例え相手が外国人でも人として影響を与える底知れない魅力がありました。

結束さんには、二人の女の子様がおり、それは幸せそうでした。しかし、訪問後しばらくして奥様が急逝され、お別れに夫婦で自宅を訪問したのが結束さん御夫妻に会った最後でした。

その後、私は会社の複写機事業立上げで指名され伊丹工場特機一課に転勤した後、彼とは文通を続けていましたが、本人も勉強熱心ですが、お子様には米国に留学をさせた

り、自らも茶道を習得されたりし、また広報で知ったのは、彼はα特許紛争で米国に在住して、長期間外国人を相手に終結まで奮闘されたと聞き、彼だから出来たんだなと思いました。

しかし、ここ1、2年、音沙汰が全くなくなり、どうしたのか心配をしていましたが、今週、訃報で結束さんが難病のパーキンソン病を患い、闘病生活をしておられたことを御家族も伏せておられ、亡くなられた事を知りました。妻を亡くした私同様に、これから孫たちの就職や結婚等で亡妻の分まで親として長生きして楽しみが沢山あったのにと残念で悔やまれてなりません。

ここに結束さんの御冥福をお祈りし残された御家族のご多幸をお祈り致します。

(神 猛史)

新井 康友さん

3月20日死去

新井さんは1962年に堺工場に入社、レンズ研磨課に所属されていました。何種類ものプレス品が伊丹工場から入荷して来たものをレンズに加工する作業に従事していました。

温厚で物静かで体格の良い人でした。年歴が思い出せないが、一時期私の担当している検査係に異動となり、一緒に仕事をしていたところにレンズ関係の部署への異動話があり、狭山市の新工場に移動されました。

その時に作業改善の教育があり、上司より新井さんが指名され教育を受けられて、職場内を見て回っている姿を狭山工場で見かけました。

その後、堺工場に異動され、堺工場でも作業改善に努められていたと思っています。

新井さんと仲間のことを話しますと、定年された仲間と年明けに一同で集まるのが麻雀屋でした。みんな元気な顔で久しぶりに集まり楽しく遊びました。

その帰り道、月一回寄り合うことにしようと話し合い、皆様元気で集うこととなりました。さらに年一回旅行をすることも決め、北海道、東北、山陽、山陰、近畿、九州、沖縄と旅した事は良い思い出となっています。

ある日電話をしたとき、胃の手術をしたと聞きえーっと驚いたことがあります。特に野菜を食べない人でしたので、奥さんも苦労されたと思います。

最近、奥さんが新井さんを自動車に乗せ歯医者に連れて行かれ、診察室の椅子に腰を下ろすときに滑って尻を床に打ちつけ、あまりにも痛がるため家の近くの主治医に診て貰ったそうです。

「これは整形に行ったほうが良い」と言われ、すぐ連れて行き診察の結果、尾骨骨折と肺炎になつていと言われて即入院となったそうです。

骨折の手術を行い、数日後にはベッドに座ってマッサージを受けるまでに良くなっていったようですが、病院食を食べないため、あまりにも痩せたので病院の担当医と主治医で話し合い、家への往診をお願いし気持ちよく受けていただいたが、その晩、病院より電話が入り今しがたお亡くなりになりましたとの連絡を受け、すぐに病院に駆けつけられたとのことでした。

心よりご冥福をお祈りいたします。

(小寺 照雄)

